HONDA

2019年度 第1四半期

2019年4月1日▶2019年6月30日

株主通信

株主の皆様へ

暮夏の候、株主の皆様には、益々ご健勝のことと存じます。

さて、さる6月19日に開催いたしました株主総会において、将来の成長に向け現在Hondaが取り組んでいる方向性について、私より説明をさせていただきました。今回の特集では、このうち、四輪事業の体質強化の取り組みについて、お伝えさせていただきます。

Hondaは、持続的成長に向けた基盤づくりとして、現在、既存ビジネスの盤石化を進めています。Hondaを取り巻く事業環境はグローバル規模で大きな変革期を迎えていますが、この中で今後も継続して、Hondaならではの「移動」と「暮らし」の新価値を創造し、世界のお客様にご提案していくための、中長期視点でのさまざまな取り組みに、ご理解を深めていただければ幸いです。

2019年度第1四半期の経営成績は、米国やインドでの四輪車販売台数の減少などにより、営業利益は2,524億円と前年同期比で減益となりましたが、為替影響や一過性影響、品質関連費用の影響などを除くと、前年同期にくらべ108億円の増益となりました。

当年度の業績見通しは、新興国市場の不透明感の高まりに加え、米中貿易摩擦の長期化懸念など、事業環境は厳しさが増していますが、二輪事業での販売台数の増加や金融サービス事業における増益に加え、さらなる事業体質の向上を図ることで、前回発表した7,700億円の営業利益を据え置きます。

2019年度第1四半期の配当金は1株当たり28円、2019年度の年間配当金の予想につきましては、2018年度にくらべ1株当たり1円増配の112円としております。

おかげさまで昨年、Hondaは創立70周年を迎え、二輪車、四輪車、パワープロダクツ、そして航空機を合わせてグローバルで3,200万人のお客様に商品をお届けし、喜んでいただくことができました。

Hondaは、これからも、世界中の一人ひとりの「移動」と「暮らし」をリードするべく、「質の追求」による成長を目指します。そして、創業100年を超える2050年においても、存在を期待される企業であり続けるよう、熱き想いでチャレンジを続けてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご指導、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2019年8月

代表取締役社長　八郷隆弘

目次

株主の皆様へ 01

特集
持続的成長の基盤を
確立するための
既存ビジネス盤石化 03

第95回 定時株主総会の
ご報告 08

新製品＆Topics 09

2019年度 第1四半期
連結業績ハイライト 11

事業の種類別
セグメントの状況 13

要約四半期
連結財務諸表の概要 17

株主様へのお知らせ 19

会社概要
／株式の状況 22

四輪事業の体質強化

HONDA
The Power of Dreams

グローバルモデルと地域専用モデルの強化

グローバルモデル

ACCORD　CIVIC　CR-V　VEZEL / HR-V　FIT / JAZZ

地域専用モデル

N-BOX (日本)　PILOT (北米等)　CRIDER (中国)　AVANCIER (中国)　BR-V (アジア等)　WR-V (南米等)

特集：持続的成長の基盤を確立するための既存ビジネス盤石化

強いHonda作りに向けた四輪事業の体質強化への取り組み

現在、Hondaを取り巻く環境は大きな変革期にあります。その中でHondaは、「すべての人に“生活の可能性が拡がる喜び”を提供する」という2030年ビジョンのステートメントのもと、既存ビジネスの盤石化と、次世代に向けた事業の変革スピードを上げるさまざまな取り組みに、全社を挙げて取り組んでいます。今回はそうした取り組みの中から、四輪事業の体質強化についてご紹介します。これまでも、そしてこれからも、Hondaならではの価値をどのように創出し、お客様へご提供していこうとしているのか。社長の八郷よりお伝えします。

商品ラインアップの強化に向けた社長就任以来4年間の取り組み

2015年6月に社長に就任して以来、私は、「Hondaらしいチャレンジングな商品づくり」と「地域の協調と連携の強化」により、強いHondaを作り上げることを掲げ、取り組みを進めてきました。その中でも経営の最重要課題として、力を注いでいることの1つが、四輪事業の体質強化です。

Hondaは、強い商品づくりの象徴である、グローバルで展開するモデルと、各地域特有のニーズに即した地域専用のモデルを両輪で展開することにより、世界各地域のさまざまなお客様のご期待に沿う商品をお届けしてきました。グローバルモデルとは、世界中の多くの国で愛され、お買い上げいただいている、生産・販売台数の規模が大きいモデルのことです。現在、CIVIC、ACCORD、CR-V、FIT / JAZZ、VEZEL / HR-Vの5機種を展開し、世界の四輪車販売の6割を占めるまでになっています。他方、価値観やインフラなど市場特性の違いに対応してつくる地域専用モデルも、各地域の成長の源泉として重要な役割を果たしています。代表的な地域専用モデルとしては、日本ではNシリーズ、北米ではSUVのPILOT、中国では小型セダンのCRIDERなどが挙げられます。グローバルモデルと地域専用モデルそれぞれが、互いの持つ商品魅力の強みを活かし、各地域の市場で相互補完をする、バランスの取れた商品ラインアップ展開になり、総合的な競争力が高まったと考えています。

地域を束ね、競争力を上げる体制づくり

この競争力を今後さらに高めていくためには、商品ラインアップの強化に加えて、より一層効率の良いクルマづくりが不可欠だと考えています。

特に、地域ごとの細かなニーズに対応していく中で、実際のお客様のご要望以上に増えた、地域専用モデルの数や、グレード、装備の組み合わせ数を見直し、商品魅力を高めながら、事業効率も上げるためのさらなる取り組みが必要だと認識しています。

そこで、これまで行ってきた各地域の協調と連携を一段と強化するため、本年4月から四輪事業の運営体制を刷新しました。グローバル6極体制は今後も変わりませんが、市場のニーズや環境規制で親和性の高い地

域を大きく2つに束ね、それぞれのグループの中でこれまで以上にスピーディーに意思疎通を図り、商品ラインアップの見直しや、モデルやグレード、装備の共有化を行う取り組みに着手していきます。お客様のニーズに合う強いモデルに集約する、同一モデルを地域間で共有する、ご要望の少ない装備を整理するなどの選択と集中を行うことで、開発、生産の効率化を図ります。

グローバルモデル5機種については、今後も四輪事業を支える柱として、本当にお客様が望まれているものが何なのかをしっかりと見極めた上で、各モデルのバリエーションを絞り込んでいくことで、より競争力のある、強いモデルとして育てていきます。

地域を束ねる新たな組織の下で、さらに協調と連携を強めながら、事業を取り巻く環境変化に対し、即断即決でスピード感のある事業展開を行っていきます。

部門を超えた連携による開発体制の進化

Hondaでは従来から、S(販売)、E(生産)、D(開発)、B(購買)の各機能がチームとなり、競争力の高いものづくり基盤を構築することで、商品力や開発スピードの向上を図ってきました。

その一例が、鈴鹿製作所で行っている「SKI(Suzuka Kei Innovation)プロジェクト」です。Nシリーズは、開発、購買、生産、販売の各部門が鈴鹿製作所に集結し、チームで商品開発を行い誕生しました。現在、このNシリーズは、発売以来累計200万台以上を販売する代表的な地域専用モデルとなっています。

私自身もこのSKIプロジェクトの立ち上げに関わりましたが、部門を超えたチーム一体での取り組みにより、意思疎通が活発化し、企画、開発スピードが向上し、結果としてお客様が欲しいと思うクルマづくりができたことを現場で実感しました。1つのチームとして、皆がお客様視点に立ち、お客様が期待する商品を出すんだ、全員で良いものをつくるんだ、という想いを共有することが、強い商品を生み出し、事業基盤を強化する上で最も重要だと考えています。

こうしたSEDBの連携をさらに高めるため、商品開発の体制も刷新しました。まず、研究所の組織運営については、お客様にご満足いただける商品づくりを目指すため、量産車開発機能を集中的に担う「オートモービ

ルセンター」を本年4月に設置し、SEDBの各部門がワンフロアに集まり、競争力のある商品づくりに取り組める環境を整えました。

また、量産車の開発効率や部品の共有化をさらに高めるために、「ホンダ・アーキテクチャー」という開発の考え方を導入しました。これは、クルマを構成する基本の骨格を「エンジンルーム」「コックピット」「リア周り」の3領域に分け、モデル同士で主要諸元や構造・部品を共有することで、開発コストを低減させる取り組みです。生産面でも、部品や装備の変更ごとに必要な、生産ラインでの治具の組み換え作業が減り、地域間でのスピーディーでフレキシブルな生産補完が可能になります。プラットフォームや部品の共有化は、従来から進めてきていることではありますが、ハイブリッド車のグローバル展開を開発の初期段階から考慮に入れながら、効率化できるところはさらに集約する一方で、モデルごとの個性を光らせることには一層こだわり、商品魅力を高めていきます。このホンダ・アーキテクチャーで開発を進めた最初のモデルを2020年に発売し、以後、他のモデルの開発にも順次適用を拡大していく予定です。

強い商品を効率よく生み出す生産体制への進化

商品の競争力をさらに高めるためには、商品魅力を高めるだけでなく、効率の良いものづくりも不可欠です。そのため、グローバル各地域で、需要に見合った生産能力になるよう、調整を着実に進めています。

中国では、これまで旺盛な需要に対し、十分な生産能力がないという課題を抱えていましたが、本年4月に東風本田の第3工場が竣工し、今後も期待される需要の拡大に確実に応えられる体制が整いました。

中国を除く各地域でフル稼働になる予定が見えてきたことに加え、中国での生産能力の拡充により、四輪生産能力の適正化について、一定の道筋をつけることができたと考えています。

また、今後取り組む課題の1つとして、最大規模の生産体制を持つ北米地域での効率化があります。Hondaが北米での生産を開始したのは37年前の1982年に遡ります。以来、北米では販売の拡大とともにモデルのラインアップを増やし、各生産拠点でさまざまなモデルを生産し、需要の変化にフレキシブルに対応できる生産体制を整えることができました。しかし、フレキシブルであるがゆえに、生産効率の低下が課題となってきました。そこで、モデルごとの装備のバリエーションを整理、統合するとともに、各工場で生産するモデルの数や、同一モデルを生産する工場の数を絞り込み、よりシンプルな生産体制とすることで、北米での四輪車生産の効率を上げていきます。

効率化した資源を先進領域の研究開発へ

開発面では、商品ラインアップの適正化とホンダ・アーキテクチャーの導入により、2025年までに2018年と比較して量産車の開発工数を30%削減することを目指しています。また生産面では、生産能力の適正化と生産体制の効率化で、グローバルでの生産領域のコストを、2025年までに10%削減する見通しを立てています。

このような、さまざまなクルマづくりの進化への取り組みにより削減できた資源を、将来に向けた先進領域での研究開発に充て、Hondaの将来を支える新技術、新価値を生み出していきたいと考えています。Hondaの原点である、「操る喜び」、「生活に役立つ喜び」は

しっかりとご提供しながら、CO_2排出削減に寄与する電動化や、Honda SENSING、自動運転技術等の安全技術を進化させます。また新たな価値観として期待される「つながる」コネクテッド技術も融合し、Hondaらしい新価値商品をご提供したいと考えています。

そのために、量産車の開発を担うオートモービルセンターの新設と併せ、より長期的視点で、10年先を見据えたモビリティ技術を磨くとともに、さらにその先のフロンティア領域における先進技術を創出するため、R（研究）の機能を集約した「先進技術研究所」を新設しました。ここから将来のHondaを支える革新的な技術を生み出すべくチャレンジをしていきます。また、コネクテッド技術をはじめ、既存事業と技術革新のスピードが格段に異なるデジタル領域については、この研究開発に特化する「デジタルソリューションセンター」を新設しました。同センターでは、四輪だけでなく二輪やライフクリエーションの領域も併せ持つHondaならではの新価値創出を、SEDBの連携で、スピード感を持って進めていきます。

電動化への取り組み

将来に向けた新技術・新価値創出に関連して、電動化に向けた現在の取り組みについてもご説明します。

Hondaはカーボンフリー社会の実現に向けて、2030年にグローバル四輪車販売台数の3分の2を電動車にする目標を掲げていますが、電動車の導入に当たっては、2つの方向性で臨みます。

まずは燃費規制への対応です。Hondaは、企業別に定められている平均燃費基準値を満たすために、今、最も有効で効率的な技術はハイブリッドだと考えています。ハイブリッド車については、20年にわたる量産の経験とノウハウを強みとして、2モーターハイブリッドシステム、「SPORT HYBRID i-MMD」を搭載したクルマをグローバルに展開していく方針です。

他方、ゼロエミッション規制には、基本的にはバッテリーEVで対応します。まずは規制の厳しい地域から、市場の状況も見て、必要があれば現地の競争力のある企業とパートナーシップを組むことも視野に入れて、効率よくバッテリーEVの投入を進めていきます。なお、バッテリーEVの開発においては、フレキシブルで効率的な開発を可能とする、バッテリーEV用アーキテクチャーを採用していきます。

クルマづくりのさらなる進化に向けて

以上、強いHonda作りに向けた四輪事業の体質強化への取り組みとして、モデルやグレード、装備の選択と集中、事業運営体制の刷新、開発・生産体制の効率化、新技術・新価値創出のための取り組みといった視点から、それぞれの施策をご説明しました。こうした新たな取り組みを着実に進め、早期に四輪ビジネスを盤石化させるとともに、将来にわたる持続的な成長に向けた基盤づくりを加速させていきます。

Hondaは将来にわたって、お客様の生活の可能性を拡げるご提案ができるよう、現在、グローバル各地域の協調と連携を強化し、SEDB各領域の力を結集しています。「良いものをつくるんだ」というチームHondaの想いを1つにまとめ、協調と連携の質を上げるために全社をリードすることが、マネジメントの役割だと考えています。中長期視点に立ったHondaの取り組みに、今後とも一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

第95回 定時株主総会のご報告

6月19日、東京都港区のホテル グランドニッコー東京 台場において第95回定時株主総会を開催し、1,719名の株主様にご参加いただきました。

第95期の監査報告、映像による事業報告に続き、当社グループの事業の取り組みについて、代表取締役社長の八郷隆弘がプレゼンテーションを行いました。プレゼンテーションでは、「すべての人に“生活の可能性が拡がる喜び”を提供する」という、2030年ビジョンのステートメントの実現に向けて、「クリーンで安全・安心な社会の実現」「移動と暮らしの価値創造」「多様な社会・個人への対応」の3つの方向性を定めていることをご紹介。それぞれについて、「カーボンフリー社会、交通事故ゼロ社会の実現に向けた電動化や安全技術の研究開発・普及」「“自由で楽しい移動の喜び”“生活が変わる・豊かになる喜び”の価値の提供」、そして「多様な文化・価値観を持つすべての人に向けた最適な商品やサービスの提供」への取り組みの状況や目指す方向性をご説明しました。

さらに、このような将来に向けた活動を可能とするための既存ビジネスの盤石化の一例として、四輪事業の体質強化に向けた取り組みをご説明しました。60周年を迎えたモータースポーツ活動においては、今シーズンも勝ちにこだわり進化を続けていく決意を語りました。

最後に、「2030年ビジョン」実現に向けチームHondaとして邁進し、将来への成長を確実なものにしていくとの想いをお伝えし、プレゼンテーションを締めくくりました。

会場ロビーでは、二輪車・四輪車・パワープロダクツの新製品や電動化への取り組み、さらにMotoGPやF1のレースマシンをご覧いただきました。

Hondaのホームページで第95回定時株主総会の模様をご覧いただけます
http://www.irwebcasting.com/20190619/1/index.html
スマートフォンやタブレットなどから、QR コードを読み取ってアクセスすることもできます。

QRコードから
アクセス！

（QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。）

新製品＆Topics

4月4日　電動二輪車用交換式バッテリーのコンソーシアムを創設

本田技研工業株式会社、川崎重工業株式会社、スズキ株式会社、ヤマハ発動機株式会社の4社は、国内における電動二輪車の普及を目的としたコンソーシアムを創設し協働を開始します。普及の課題である航続距離、充電時間、車両およびインフラコストなどに対応し、交換式バッテリーとそのバッテリー交換システムの標準化の検討を進め、技術的なシナジーやスケールメリットを創出すること、また電動二輪車の普及を通じて、低炭素社会の実現に貢献することを目指します。

4月16日　2019年上海モーターショーで中国専用電気自動車の第2弾となる「X-NV CONCEPT」を世界初公開

Hondaは2025年までに中国市場へ20機種以上の電動化モデルを投入するというビジョンを掲げ、2020年以降にはプラグインハイブリッド搭載モデルの投入を予定しています。さらに、四輪車以外においてもさまざまなモビリティにおける電動化を加速させていきます。

5月30日　世界一のHonda整備士を決める「Honda World Skills Contest」を初開催

クルマの安心と安全を支える世界の販売店サービススタッフを対象とした技術コンテストを初開催しました。今後、電動化や知能化など、モビリティへの新技術の搭載が見込まれ、サービススタッフの技術力向上がさらに重要となる中、強い販売・サービスの現場づくりを通じ、お客様満足の向上に取り組んでいきます。

4月 4　16　5月　30　6月　6

6月6日　船外機BF250/BF225/BF200に電子制御リモートコントロールシステム搭載タイプを追加するとともに、BF175をモデルチェンジし発売

クラストップレベル※1の高い動力性能や優れた経済性でご好評いただいている大型4ストローク船外機BF250、BF225、BF200、新型モデルBF175にHondaの船外機としては初めての新開発電子制御リモートコントロールシステム(DBW※2)を搭載しました。これによりスムーズで確実なシフト操作と、素早く正確なスロットル操作を実現しています。

※1 175、200、225、250の各馬力帯の船外機として。Honda調べ(2019年6月現在)
※2 DBW：ドライブ・バイ・ワイヤ(Drive By Wire)の略

6月12日　世界初のタンブル流強化技術をインド生産二輪車Activa125に搭載して発売

インドの排ガス新法規「BS6※1」へ対応するため、市場を代表するモデルの1つ「Activa125」へ、環境エンジンeSPを搭載し発売しました。吸気ポートを二層構造とし、ポート内の逆流を利用することで、新たな部品を追加することなくタンブル流※2を生み出す技術は世界初搭載となります。これにより、燃費効率を向上させ、PGM-FIやアイドリングストップシステムの採用などと合わせて、従来モデルに対して、燃費性能を10%向上しています。

※1 2020年4月以降にインドで生産される二輪車へ適用される排出ガス規制
※2 シリンダー内に発生する縦渦状の空気の流れ

6月21日　軽量と高剛性を両立する新型フレームeSAFを搭載したインドネシア生産二輪車「Genio」を発売

インドネシアの流行に敏感な若者向けのスクーターモデル「Genio(ジェニオ)」に、生産効率および加工精度を向上させ、安定した品質の新型フレームeSAFを開発し採用しました。剛性を高めながら従来の同クラスのフレームに対し8%以上の軽量化を実現、軽快な走りと優れた乗り心地に寄与しています。このeSAFを、アジアで展開している他のモデルにも水平展開する予定です。

6月28日　MONETに追加出資

HondaはMaaS事業の価値向上とモビリティサービスユーザーへのサービス向上を図ることを目的に、2019年3月28日MONET Technologies株式会社(以下「MONET」)と資本・業務提携に関する契約を締結しました。またこの度国内自動車メーカー5社が新たにMONETとの資本・業務提携を締結することにともない、Hondaは追加出資を行い引き続きMONETの株式の約10%を保有する予定です。このMONETとの連携を通じて、モビリティサービスの社会受容性・顧客受容性獲得のための普及活動、モビリティサービスの実証実験、関連法令整備に向けた渉外活動などをよりスピーディーに推進し、日本のモビリティサービス産業の振興と日本における交通関連の社会課題の解決を目指していきます。

12　21　28

新型「N-WGN」を発売「N-BOX」シリーズが2018年度 新車販売台数第1位を獲得※

「N-WGN」はお客様のパーソナルユースにより一層お応えできるクルマとしてフルモデルチェンジし、8月9日に発売しました。日常的にクルマを運転する人に向け、あらゆるシーンで快適にクルマを使うために必要な安全性能や使い勝手を追求しました。また「N-BOX」シリーズが登録車を含む新車販売台数においてHondaで初めての記録となる2年連続第1位を獲得しました。

Hondaの世界選手権参戦60周年

Hondaは創業当時から世界の頂点を目指し、モータースポーツへの挑戦を続けてきました。その挑戦の歴史の象徴である、マン島T.T.レース参戦から60周年となる今年を、「Honda Racingアニバーサリー・イヤー」とし、記念イベントを数多く実施していきます。これまでレース活動を支えていただいた、多くのお客様やモータースポーツ・ファンの皆様とともに、喜びを共有し、Hondaがレースに参戦する意義や歴史を、広く伝えるとともに、次世代にも伝承していきたいと考えています。

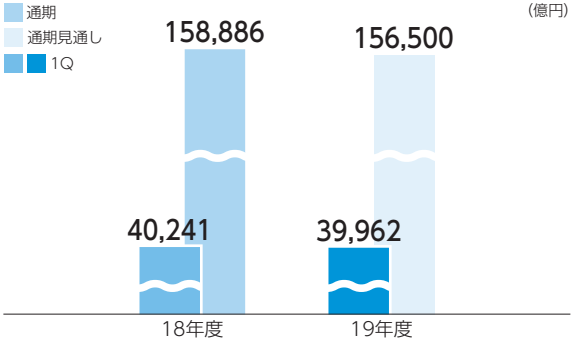
※ 一般社団法人 日本自動車販売協会連合会および全軽自協調べ

2019年度 第1四半期 連結業績ハイライト

(2019年4月1日～2019年6月30日)

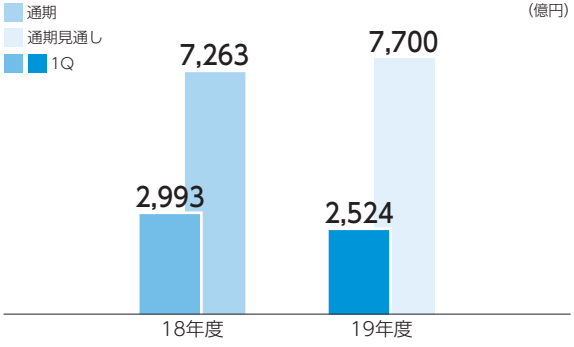
売上収益

3兆9,962億円　前年同期比 −0.7%

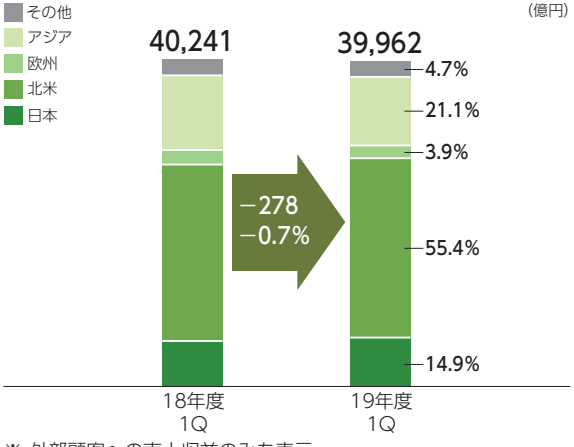


営業利益

2,524億円　前年同期比 −15.7%

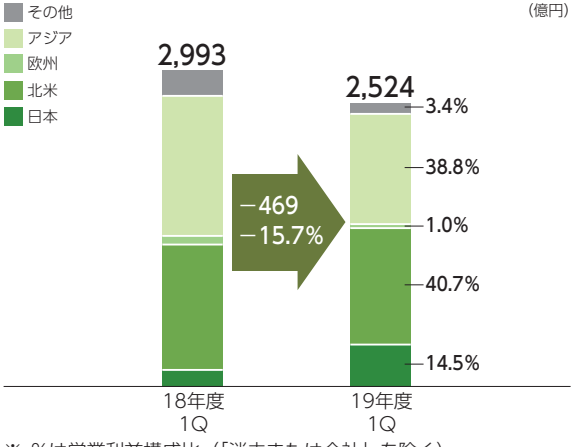


所在地別売上収益



※ 外部顧客への売上収益のみを表示
※ % は売上収益構成比

所在地別営業利益

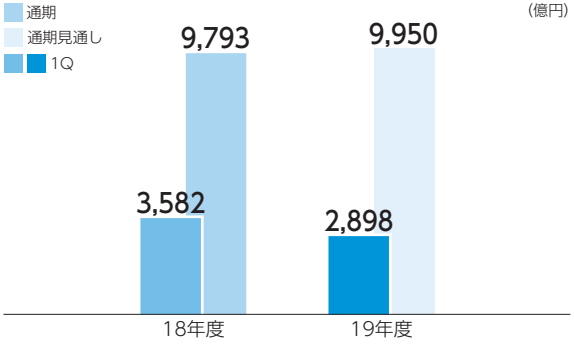


※ %は営業利益構成比（「消去または全社」を除く）

北米：米国、カナダ、メキシコ など　**欧州：**英国、ドイツ、ベルギー、イタリア、フランス など　**アジア：**タイ、インドネシア、中国、インド、ベトナム など　**その他：**ブラジル、オーストラリア など

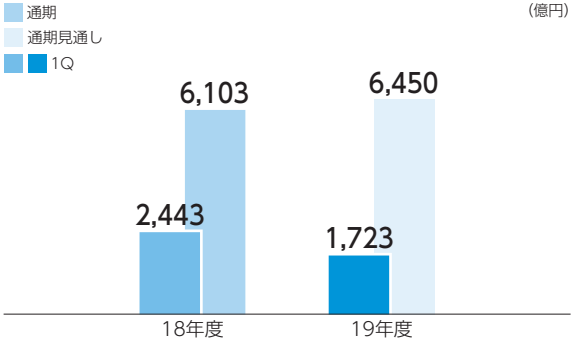
税引前利益

2,898 億円　前年同期比 −19.1%

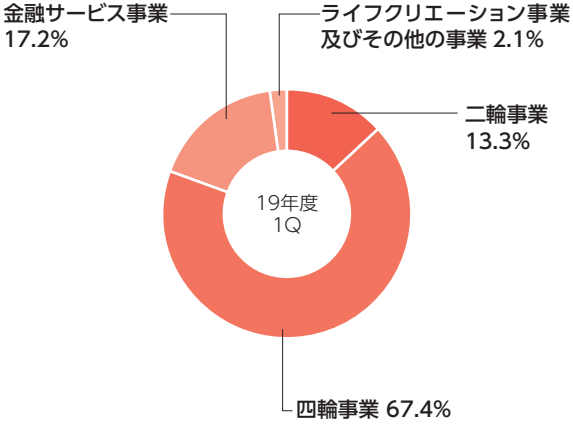


親会社の所有者に帰属する四半期(当期)利益

1,723 億円　前年同期比 −29.5%

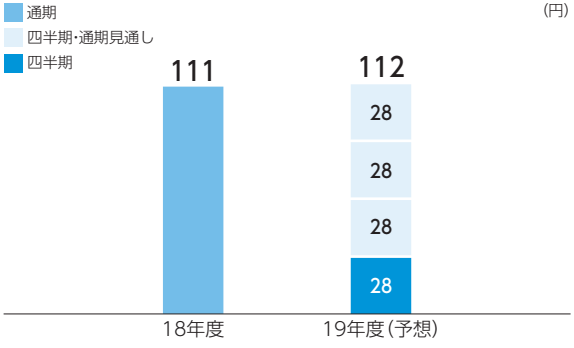


事業別売上収益構成



配当金

28 円



※ 当第 1 四半期の平均為替レートは 1 米ドル＝110 円(前年同期 109 円)です。
※ 業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき当社の経営者が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。
※ 見通しの為替レートは、通期平均で 1 米ドル＝110 円を前提としています。
※ ライフクリエーション事業は、2019 年 4 月 1 日より、パワープロダクツ事業が名称変更したものです。

事業の種類別セグメントの状況

二輪事業

売上収益

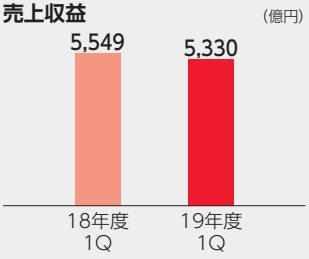
5,330億円

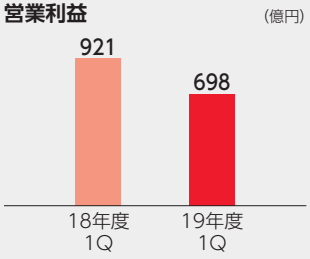
前年同期比　−3.9%

営業利益

698億円

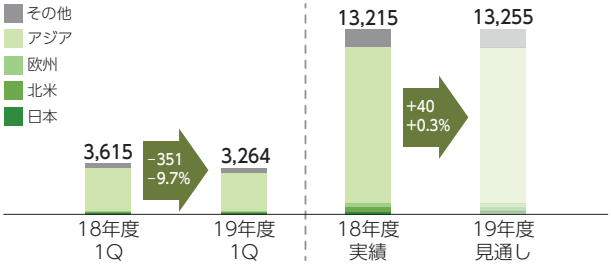
前年同期比　−24.2%



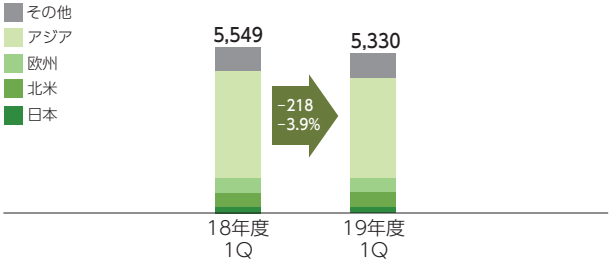


二輪事業の外部顧客への売上収益は、連結売上台数の減少などにより、5,330億円と前年同期にくらべ3.9%の減収となりました。営業利益は、コストダウン効果などはあったものの、台数変動及び構成差に伴う利益減や販売費及び一般管理費の増加などにより、698億円と前年同期にくらべ24.2%の減益となりました。

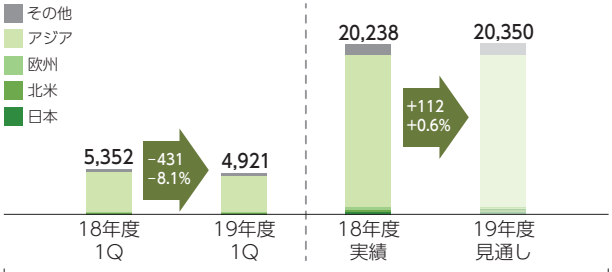
連結売上台数



仕向地別(外部顧客の所在地別)売上収益



Honda グループ販売台数



■主要市場における販売実績

【その他】ブラジルなどで増加

【アジア】インドで選挙や融資引き締め継続による市場減速影響などにより減少

■2019年度販売見通し

ベトナムでの販売増加などを反映し、前回見通しより10万台上方修正

↗インドでは、Activa125など新法規に対応した魅力ある製品で中長期でのさらなる成長を目指す

※ Hondaグループ販売台数は、当社および連結子会社、ならびに持分法適用会社の完成車(二輪車・ATV・Side−by−Side)販売台数です。一方、連結売上台数は、外部顧客への売上収益に対応する販売台数であり、当社および連結子会社の完成車販売台数です。

四輪事業

売上収益

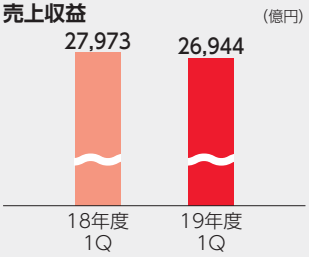
2兆6,944億円

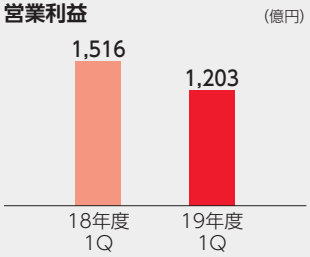
前年同期比　−3.7%

営業利益

1,203億円

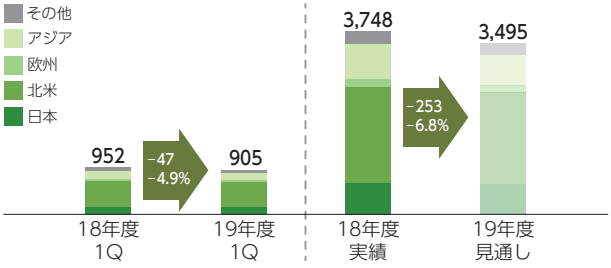
前年同期比　−20.6%



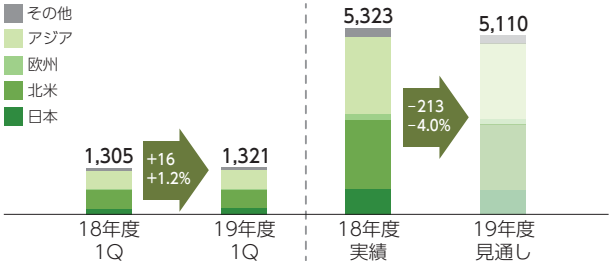


四輪事業の外部顧客への売上収益は、連結売上台数の減少などにより、２兆6,944億円と前年同期にくらべ3.7%の減収となりました。営業利益は、コストダウン効果などはあったものの、販売費及び一般管理費の増加や台数変動及び構成差に伴う利益減などにより、1,203億円と前年同期にくらべ20.6%の減益となりました。なお、四輪事業と金融サービス事業に含まれる四輪車の販売に関連する営業利益を合算すると1,836億円と試算されます。

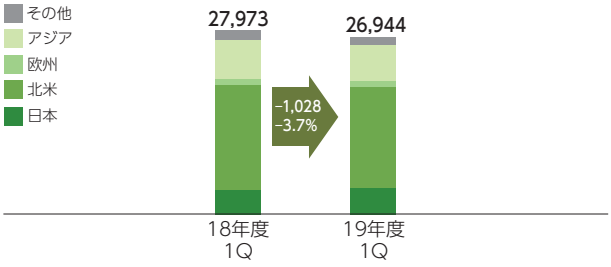
連結売上台数



Honda グループ販売台数



仕向地別(外部顧客の所在地別)売上収益



■主要市場における販売実績

【北米】　米国でPassportなどの増加はあったが、Accordなどが減少

【アジア】中国でCR-V、Accord、Inspireの増加や新型車Envixの投入効果などにより前年同期を上回った

【日本】　N-VAN、N-BOXの好調な販売などにより市場の伸びを上回った

■2019年度販売見通し

インド等での販売減少を反映し、前回見通しより5万台下方修正

↗米国ではPassportなどライトトラックの販売増を目指す

↗日本では新型N-WGNや新型車発売などにより増税影響の抑制を図る

↗中国ではEnvixやAccord、Inspireなどの販売増で過去最高を目指す

※ Hondaグループ販売台数は、当社および連結子会社、ならびに持分法適用会社の完成車販売台数です。一方、連結売上台数は、外部顧客への売上収益に対応する販売台数であり、当社および連結子会社の完成車販売台数です。

金融サービス事業

売上収益

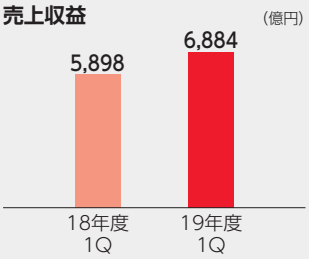
6,884億円

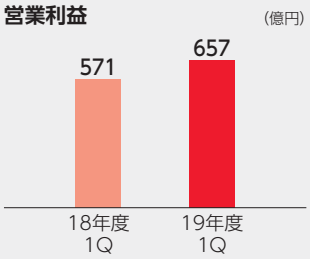
前年同期比　+16.7%

営業利益

657億円

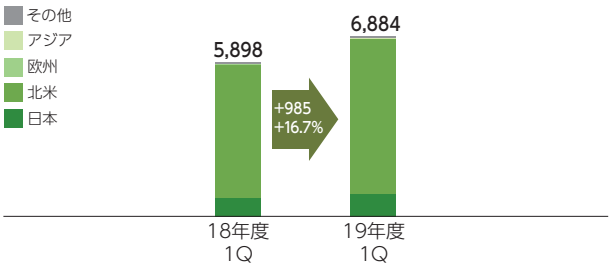
前年同期比　+15.0%





金融サービス事業の外部顧客への売上収益は、リース車両売却売上やオペレーティング・リース売上の増加などにより、6,884億円と前年同期にくらべ16.7%の増収となりました。営業利益は、増収に伴う利益の増加などにより、657億円と前年同期にくらべ15.0%の増益となりました。

仕向地別(外部顧客の所在地別)売上収益



金融サービス事業とは(ご参考)

お客様が製品を購入する際のローンやリースなどのサービスの提供を行っており、主に四輪車の販売に関連するものです。

ライフクリエーション事業及びその他の事業

売上収益

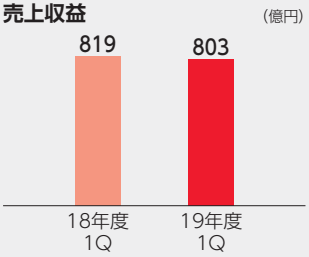
803億円

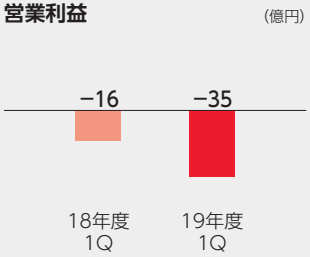
前年同期比　−2.0%

営業利益

−35億円

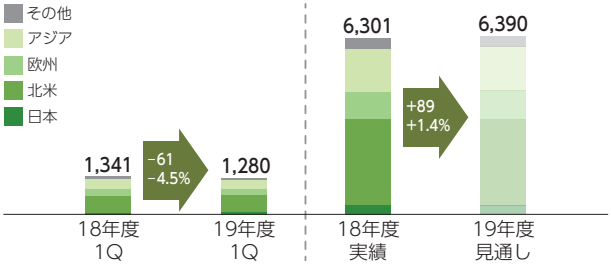
前年同期比　−19億円





ライフクリエーション事業及びその他の事業の外部顧客への売上収益は、ライフクリエーション事業の連結売上台数の減少などにより、803億円と前年同期にくらべ2.0%の減収となりました。営業損失は、販売費及び一般管理費の減少などはあったものの、台数変動及び構成差に伴う利益減などにより、35億円と前年同期にくらべ19億円の悪化となりました。なお、ライフクリエーション事業及びその他の事業に含まれる航空機および航空機エンジンの営業損失は、91億円と前年同期にくらべ8億円の改善となりました。

連結売上台数／Honda グループ販売台数



■主要市場における販売実績

【北米】　米国で芝刈機・高圧洗浄機OEM*向けのGCVエンジンや芝刈機HRR216が増加

【アジア】中国で建設機械搭載用のGXエンジンやポンプ搭載用のGPエンジンなどが減少

【欧州】　建設機械搭載用のGXエンジンなどが減少

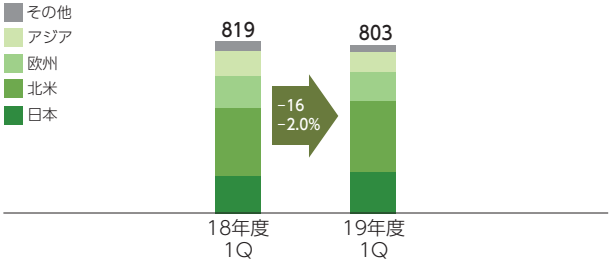
■2019年度販売見通し

前回見通しと変更なし

＊ OEM：汎用エンジンの供給先である相手先ブランド

※ Hondaグループ販売台数は、当社および連結子会社、ならびに持分法適用会社のパワープロダクツ販売台数です。一方、連結売上台数は、外部顧客への売上収益に対応する販売台数であり、当社および連結子会社のパワープロダクツ販売台数です。なお、当社は、パワープロダクツを販売している持分法適用会社を有しないため、ライフクリエーション事業においては、Hondaグループ販売台数と連結売上台数に差異はありません。

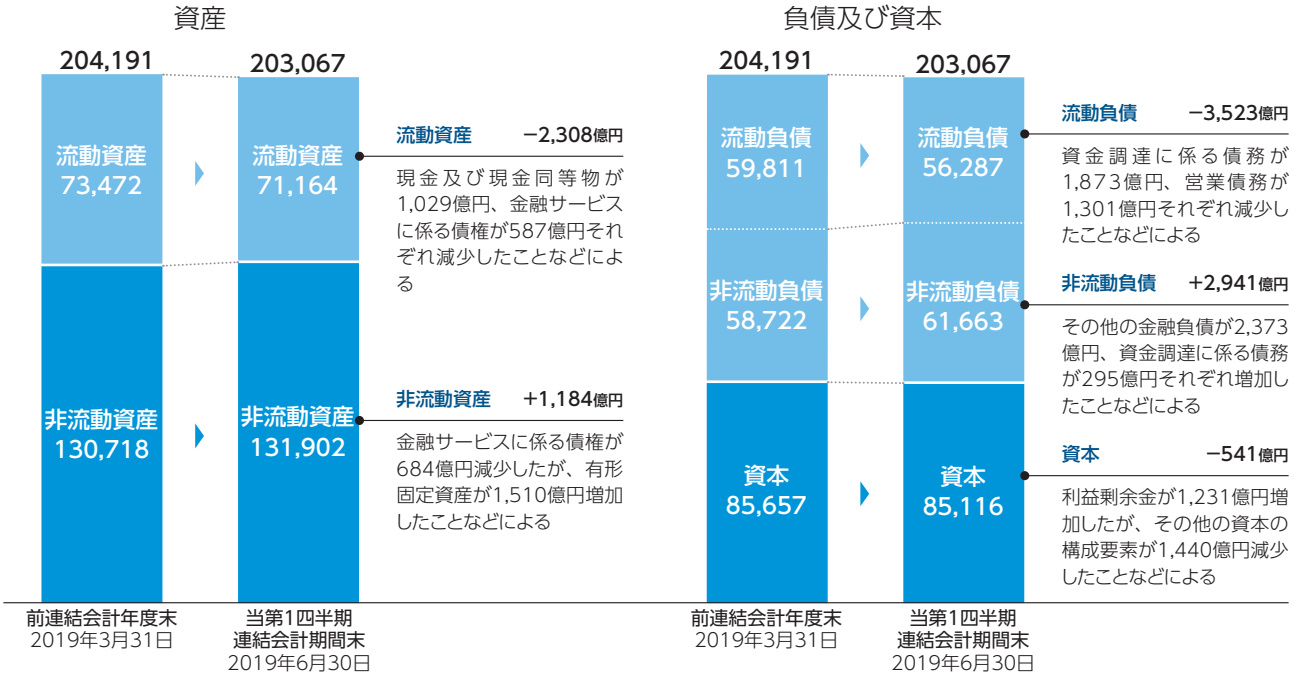
仕向地別（外部顧客の所在地別）売上収益



要約四半期連結財務諸表の概要

要約四半期連結財政状態計算書

（億円）



連結財政状態の概況
（前会計年度末との比較）

総資産
IFRS第16号の適用による使用権資産を含む有形固定資産の増加などはあったものの、為替換算による資産の減少影響などにより、1,124億円減少

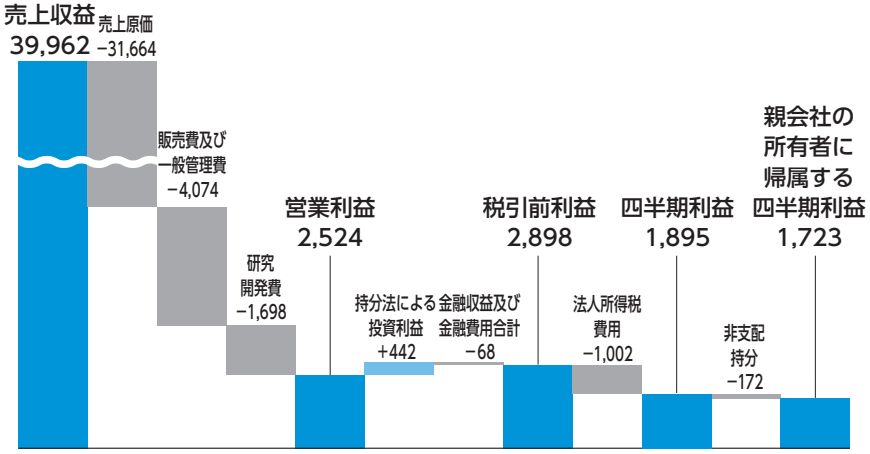
負債
IFRS第16号の適用によるリース負債を含むその他の金融負債の増加などはあったものの、営業債務の減少や為替換算による負債の減少影響などにより、582億円減少

資本
四半期利益による利益剰余金の増加などはあったものの、為替換算による資本の減少影響などにより、541億円減少

決算関連資料は、当社Webサイトにてご覧いただけます。
QRコードはこちら➡
https://www.honda.co.jp/investors/library/financialresult.html

要約四半期連結損益計算書

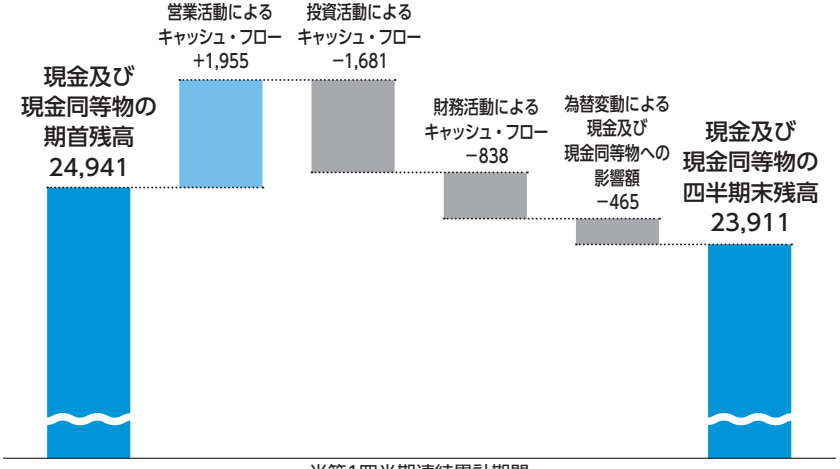
（億円）



当第1四半期連結累計期間
自 2019年4月1日　至 2019年6月30日

要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（億円）



当第1四半期連結累計期間
自 2019年4月1日　至 2019年6月30日

連結経営成績の概況
（前年同期との比較）

売上収益
金融サービス事業における増加はあったものの、四輪事業、二輪事業、ライフクリエーション事業及びその他の事業における減少や為替影響などにより0.7%の減収

営業利益
コストダウン効果などはあったものの、販売費及び一般管理費の増加、売上変動及び構成差に伴う利益減、為替影響などにより15.7%の減益

税引前利益
19.1%の減益

親会社の所有者に帰属する四半期利益
税引前利益の減少に加え、米国における法人所得税費用等の増加などにより29.5%の減益

連結キャッシュ・フローの概況
（前年同期との比較）

営業活動によるキャッシュ・フロー
法人所得税の支払いの減少などはあったものの、部品や原材料の支払いの増加などにより、188億円の減少

投資活動によるキャッシュ・フロー
その他の金融資産の売却及び償還による収入の減少などはあったものの、その他の金融資産の取得による支出の減少などにより、758億円の減少

財務活動によるキャッシュ・フロー
資金調達による収入の増加などはあったものの、資金調達に係る債務の返済の増加などにより、234億円の増加

株主様へのお知らせ

2019年度　株主様ご視察会　応募制・抽選有

対象：2019年6月末時点で一単元（100株）以上の当社株式をご所有の株主様

Hondaの事業活動をより一層ご理解いただきたく、株主様ご視察会を開催いたします。
事業所ご視察会もしくはレース・イベントのいずれか1つをお選びいただき、ご応募ください。
また、当社株式を長期ご所有の株主様*との対話をより深めさせていただくため、各々に「長期保有株主様コース」を新たにご用意いたしました。

＊「長期ご所有の株主様」とは、2019年6月末時点の株主名簿を基準とし、各四半期の株主名簿に連続して13回以上同一株主番号で記載又は記録された株主様をいいます。

※ 厳正なる抽選の上、当選発表につきましては当選者へのご連絡をもってかえさせていただきます。
当選案内のお届け先は、2019年6月末時点の株主名簿記載の住所・氏名とさせていただきます。転居等でご住所に変更がある場合は、「Honda株主優待係」までご連絡ください。
※ 開催場所または最寄駅までの交通費・駐車料金等は、株主様のご負担とさせていただきます。

事業所ご視察会 Ⓐ～Ⓔ、Ⓖ～Ⓚ

開催場所	記号・開催日	長期保有株主様コース	時間	募集人数
埼玉製作所 寄居工場　埼玉県大里郡寄居町 生産品目：四輪車 VEZEL、CR-V、CIVICセダン 等 アクセス：東武東上線・JR八高線「小川町駅」より送迎バス有。寄居工場ウエルカムセンター前に駐車場用意。	Ⓐ11/ 7 (木)午前		9:00～11:15頃	各100名様
	Ⓑ11/ 8 (金)午前			
	Ⓖ11/ 7 (木)午後	●	13:30～16:45頃	
	Ⓗ11/ 8 (金)午後	●		
鈴鹿製作所　三重県鈴鹿市 生産品目：四輪車 Nシリーズ 等 アクセス：近鉄名古屋線「白子駅」より送迎バス有。鈴鹿サーキットに駐車場用意。	Ⓒ11/21(木)午前		9:00～11:15頃	各120名様
	Ⓓ11/22(金)午前			
	Ⓘ11/21(木)午後	●	13:30～16:45頃	
	Ⓙ11/22(金)午後	●		
熊本製作所　熊本県菊池郡大津町 生産品目：二輪車、パワープロダクツ（ゴールドウィング、発電機 等） アクセス：阿蘇くまもと空港、JR豊肥本線「肥後大津駅」より送迎バス有。熊本製作所に駐車場用意。	Ⓔ11/29(金)午前		9:00～11:15頃	各100名様
	Ⓚ11/29(金)午後	●	13:30～16:45頃	

※「長期ご所有の株主様」はA～E,G～K全てにご応募いただけます。
※ ご参加は株主様ご本人のみとさせていただきます。熊本製作所については、未就学児を除く同行者1名様のご参加が可能です。ご応募の際に同行者の有無をご選択ください。

レース・イベント Ⓕ

募集人数　合計4,000名

■ スーパーフォーミュラ/ツーリングカーレース

2019年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 最終戦 第18回JAF鈴鹿グランプリ / FIA WTCR Race of Japan

2019年10月26日(土)/27日(日)(2日間ご入場可) 於・鈴鹿サーキット

国内最高峰フォーミュラカーレース / 市販車レースの世界選手権を同日開催

2019年シーズンは新型シャシーSF19が導入され、多彩な駆け引きとハイレベルなバトルが毎戦繰り広げられています。Hondaは5チーム9台体制で参戦。昨年チャンピオンを獲得した山本尚貴を筆頭に若手ドライバーの活躍も著しい国内最高峰のレースです。また、WTCRは元F1ドライバーなど多数のトップドライバーが参戦している大迫力のレースです。

■ ロードレース

2019 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ最終戦 第51回 MFJグランプリ スーパーバイクレース in 鈴鹿

2019年11月2日(土)/3日(日・祝)(2日間ご入場可) 於・鈴鹿サーキット

Team HRC 2年目のワークス参戦でチャンピオンをねらう

国内最高峰の二輪ロードレースにTeam HRCとして継続してワークスチームとして参戦。ライダーは昨年に引き続き高橋巧を起用。若手・ベテランを起用したHondaチームの活躍も見所のひとつです。ランキングトップを独走しているTeam HRC 高橋巧選手がチャンピオンを獲得できるか見逃せないレースです。

■ SUPER GT

2019 AUTOBACS SUPER GT Round8 MOTEGI GT 250km RACE GRAND FINAL

2019年11月2日(土)/3日(日・祝)(2日間ご入場可) 於・ツインリンクもてぎ

元F1チャンピオン ジェンソン・バトンが2019年も参戦

昨シーズン、チャンピオンを獲得したHondaは2019年も NSX-GT 5台体制で参戦。レース終了後のグランドフィナーレ開催など、イベントが盛りだくさんの見逃せないレースです。

■ ヒストリックイベント

SUZUKA Sound of ENGINE 2019

2019年11月16日(土)/17日(日)(どちらか1日ご入場可) 於・鈴鹿サーキット

モータースポーツの歴史を振り返る夢の2日間

鈴鹿サーキットは、モータースポーツの歴史的価値を絶やすことなく維持し続けるために、歴史に加え現代から未来にスポットライトを当てイベントを展開いたします。二輪、四輪のヒストリックマシンのエンジンサウンドが鈴鹿サーキットに響き渡ります。

※ 上記4つのレース・イベントのうち、いずれか1つにご入場いただけます。ご来場の株主様に加えて、同行者1名様および高校生以下の同行者3名様までご入場いただけます。
※ ご来場の株主様および同行者1名様には、鈴鹿サーキット ゆうえんちモートピアまたはツインリンクもてぎ モビパークの「のりものパスポート」が付属いたします。「のりものパスポート」は、ご来場のレース・イベントのご入場可能日のうち1日限り有効です。
※ SUZUKA Sound of ENGINE 2019には「のりものパスポート」は付属いたしません。

長期保有株主様コースⓁ～Ⓠ

※Ⓕ「レース・イベント」ご選択の場合の長期ご所有の株主様のみ、いずれか1つのご選択が可能です。

開催場所	記号・開催日	時間	募集人数	内容
鈴鹿サーキット	Ⓛ10/26(土)	10:15～11:30頃	各20名様	**ピットウォーク＆コントロールタワーツアー** レースの現場、運営・管理などをご案内いたします。
	Ⓜ10/27(日)	9:15～10:30頃		
ツインリンクもてぎ	Ⓝ11/2(土)①	9:30～11:15頃		**ホンダコレクションホールツアー** Hondaの創業の原点とモータースポーツの関わりをテーマにご案内いたします。
	Ⓞ11/2(土)②	11:30～13:15頃		
	Ⓟ11/3(日)①	9:30～11:15頃		
	Ⓠ11/3(日)②	11:30～13:15頃		

※ レーススケジュールによってツアー実施時刻が変更になる場合があります。

2020年　Hondaカレンダー　応募制

対象：2019年6月末時点で一単元（100株）以上の当社株式をご所有の株主様

2020年のHondaカレンダーを、ご応募いただいた対象の株主様全員に1部ずつ進呈いたします。

※ 昨年2019年 Hondaカレンダーにご応募いただき、同一の株主番号で2019年6月末時点で一単元（100株）以上ご所有の株主様には、引き続き2020年 Hondaカレンダーをお届けいたします。
※ カレンダーは、11月下旬から順次2019年6月末時点の株主名簿に記載のご住所にお届けする予定です。ご住所に変更がある場合は、「Honda株主優待係」までご連絡ください。
※ カレンダーはA4（見開きA3）サイズです。右記写真はイメージであり、デザインを一部変更する場合がありますのでご了承ください。

7月（イメージ）

11月（イメージ）

Hondaオリジナルフレーム切手の終了について

当社株式を長期ご所有の株主様との対話をより深めさせていただくため、今年度より株主様ご視察会に「長期保有株主様コース」を新たにご用意いたしました。これに伴い、Hondaオリジナルフレーム切手の進呈を終了させていただきます。

お申し込み方法　応募締切日 2019年9月12日(木) ※当日必着

インターネットの場合　スマートWeb　検索

右記の**QRコード**または**URL(https://smartweb1.eventissimo.jp/)**よりお申し込みページにお入りいただき、応募ハガキに記載の**ID・パスワード**をご入力の上、お申し込みください。

応募ハガキの場合

応募希望の記号等を○で囲み、ご郵送ください。

※ ご視察会へのご応募は、「インターネット」または同封の「応募ハガキ」により事業所ご視察会もしくはレース・イベントA～Kのいずれか1つのみお受けいたします。複数のご応募は無効となりますのでご注意ください。
※ インターネットと応募ハガキの両方でお申し込みがあった場合は、インターネットでのお申し込みを有効とさせていただきます。
※ 応募ハガキには連絡先のお電話番号をご記入いただき、個人情報保護シールを貼付の上、ご郵送ください。ご記入いただいた電話番号は、今回のご応募以外の目的では使用いたしません。

株主優待に関するお問合せは「Honda株主優待係」まで　03-6743-3226（平日9：00～17：00 土・日・祝日を除く）

会社概要／株式の状況（2019年6月30日現在）

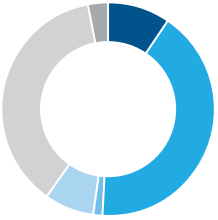
会社概要

社名	本田技研工業株式会社	設立年月日	1948年（昭和23年）9月24日
英文社名	HONDA MOTOR CO., LTD.	資本金	86,067,161,855円
本社	東京都港区南青山二丁目1番1号（〒107-8556）	主な製品	二輪車・四輪車・パワープロダクツ

株式の状況

発行済株式の総数 1,811,428,430 株
株主数 215,701 名

株式の所有者別分布状況



個人・その他	9.47%
金融機関	41.57%
証券会社	1.38%
その他国内法人	7.57%
外国人	37.19%
自己名義	2.82%

大株主

氏名または名称	持株数（千株）	出資比率（%）
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	128,676	7.31
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	127,261	7.23
モックスレイ・アンド・カンパニー・エルエルシー	61,176	3.48
エスエスビーティシー クライアント オムニバス アカウント	59,635	3.39
明治安田生命保険相互会社	51,199	2.91
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口9）	44,905	2.55
東京海上日動火災保険株式会社	35,461	2.01
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口5）	33,118	1.88
株式会社三菱UFJ銀行	31,183	1.77
日本生命保険相互会社	28,666	1.63

（注）1. 株数は千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 出資比率は、発行済株式の総数から自己株式（51,154千株）を控除して算出しております。
3. モックスレイ・アンド・カンパニー・エルエルシーは、ADR（米国預託証券）の預託機関であるジェーピー モルガン チェース バンクの株式名義人です。

株式事務のご案内

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月
基準日
定時株主総会 毎年3月31日
期末配当 毎年3月31日
第1四半期末配当 毎年6月30日
第2四半期末配当 毎年9月30日
第3四半期末配当 毎年12月31日
上場証券取引所 国内：東京証券取引所
海外：ニューヨーク証券取引所
単元株式数 100株
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
（特別口座の口座管理機関）
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
（電話照会先） 0120-782-031（フリーダイヤル）

公告方法 電子公告により行います。
ただし、事故その他、やむを得ない事由により電子公告による公告をすることができない場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載して行います。
〔公告掲載 URL〕
https://www.honda.co.jp/investors/
証券コード 7267

住所変更、配当金のお受け取り方法の指定・変更、単元未満株式の買取・買増

株主様の口座がある証券会社等にお申し出ください。
※特別口座に株式が記録されている場合は、三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

未払配当金の支払

三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。
0120-782-031

HONDA
The Power of Dreams

証券コード：7267
株主通信 No.182

本田技研工業株式会社
発行　人事・コーポレートガバナンス本部　総務部
〒107-8556　東京都港区南青山 2-1-1
https://www.honda.co.jp

表紙の写真：欧州仕様 HR-V（日本名:VEZEL（ヴェゼル））

UD FONT

ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC® C022915
www.fsc.org

VEGETABLE OIL INK